



ザクロ（柘榴、若榴）



ミソハギ科ザクロ属 *Punica granatum*、落葉小高木。5月から6月に鮮やかな朱紅色盃状の花をつける。雄蕊は多数あり、6枚の花弁は薄く先が少し縮れる。地中海と中東地域で古くから栽培され、乾燥した丘陵地の、日中の暑さと夜間の涼しさがあるところが適地らしい。中国経由で平安時代以前には渡来していたようである。

乾燥させた樹皮や根皮、果皮は生薬として知られ、「石榴皮」、「石榴根皮」または「石榴果皮」と言い、古くから条虫の駆虫薬やうがい薬などに用いら

れたと言う。主成分としてプソイドペレチエリン、ペレチエリンなどのアルカロイドが含まれる。

大学2号館の「みなもの庭」（岡田憲久氏作庭）をご存知だろうか。その奥にザクロがある。初夏には花が、秋には拳大の果実が見られる。庭には、ネムノキ、キンモクセイ、クロガネモチ、スイフヨウ、ユキヤナギ、ケヤキなどが植えられ、下生えにシャガなどが配されて、季節の彩りとなっている。2号館には大学の用水の半分を供給する井戸があり、庭池もその水によるものだろう。今は地下を掘り進めるリニア新幹線のために採水を止め、学内の水道は市水に替わっている。

ザクロの果実を割ると、白い隔壁に分かたれて、宝石のような赤い果肉に包まれた小さな種が多数見える。そんな果実の様子が心臓に似るらしい。西洋ルネッサンスの絵画では心臓を示すモチーフだそうで、ボッティチェリの聖母子像では、ザクロを持つマリ

学校法人中部大学

監事

太田明德



アの手が幼児キリストの胸の位置に描かれ、後の死と復活を暗示しているという。東洋の鬼子母神は強烈な母性の権化であり、釈迦に諭される前は我が子のために人の子を食う恐ろしい神であった。これにザクロを供えるのは、母子の守護を願うと同時に、代わりに食べてねということらしい。なお、種子の多いザクロは豊穡と子孫繁栄の象徴でもあるらしいので念の為。

ところで、「ザクロ」という呼び名は柘榴（若榴）を呉音で「ジャク・ル」と言ったからとの説がある。

紅を緑に隠す柘榴かな

柘榴花水面の庭に咲きにけり

参考)

- ・Wikipedia「ザクロ」
- ・「学園回想」大西良三、p183-184、風媒社2012
- ・「世界有用植物事典」堀田満他編、p875、平凡社1989
- ・「朝日百科植物の世界」第4巻、p638、朝日新聞社1997